



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127

平成20年(2008年)3月21日第30号

情報

『「情報という言葉はようできているな、情けに報いる、情も報じると書いてある。」つまり、情報の向こう側に常に感情をもった人がいることを意識し、人のためになったり、みんなが幸せになるように活用を考えたりすることが大事。』

20年ほど前の授業で、子どもたちによく話していた一節です。

情報が飛び交うネット社会の変化には、驚かされる今日このごろです。

3週間ほど前に女子大生がネットにアップした「さかなのうた」という自作アニメが、話題になっています。まるでジブリ作品のように完成度が高く、プロの作品と見間違えるほどです。アニメ、音楽、作詞、作曲、歌をすべて一人でこなしたそうです。大学の卒業制作として作ったものをみんなに見てもらいたいとネットにアップしたら、1週間に20万件のアクセスがあり、そのためのファンサイトも立ち上がりました。以前では、こうした才能の多くは日の目を見ずに埋もれてしまっていました。



一方、先日、教育センターで開催された研修で、滋賀大学の宮田仁先生が、子どもたちのケータイ（携帯電話）によるネット利用についてお話をされました。そのお話の中には「プロフ」「モバゲー」「アバター」など聞き慣れない言葉が並び、そこで起こっている子どもたちの変化や問題などについて、ご講義をいただきました。

特に、モバゲーは多くの子どもたちが参加していて、ネット空間で自分の分身アバターを作り、活動しているそうです。その中で、アバター同士がカップルになったり、家族として過ごしたりもしているそうです。服も最新のファッションに自由に着替えができたり、顔もかえることができたり、あたかももう一人の自分の新しい世界が広がっているようでした。

ネットは新しい世界を創出し、発表の場をつくり、知らない人と交流ができ、魅力的で、あたかも人々をどんどんと吸い込んでいくかのようです。

ネットの世界が広がる中、誹謗中傷や著作権、肖像権など個人の権利の侵害など、新しいトラブルが起きています。また、子どもたちがケータイなどを操り、ネットで過ごす時間も増えています。そのため、情報モラル、情報安全教育の必要性がクローズアップされています。

あらためて、子どもたちにネットの向こう側に情をもった人がいること。そして、ネットのこちら側にも現実社会を生きている大切なあなた自身がいることを伝えたいと思っています。(十河)

支援学級に名称が変わります

学校教育法一部改正（本年4月1日施行）により「盲学校、聾学校及び養護学校」が特別支援学校に改められたことを踏まえ、大阪府教育委員会では、大阪府議会12月定例会において大阪府立高等学校等条例を改正し、以下のとおり名称等を変更することになりました。

1 大阪府立盲・聾・養護学校の名称変更について

(1) 名称変更の内容

盲学校	→	視覚支援学校	例：大阪府立視覚支援学校
聾学校	→	聴覚支援学校	例：大阪府立生野聴覚支援学校
養護学校	→	支援学校	例：大阪府立豊中支援学校 大阪府立箕面支援学校 大阪府立刀根山支援学校

※ 大阪府立たまがわ高等支援学校は変更なし

(2) 名称変更を実施する日

平成20年4月1日

(3) 名称変更に伴う留意点

養護学校の障害種別については、
名称変更に伴う障害種別の変更
等を行わない。



2 「養護学級」の呼称変更について

大阪府立盲・聾・養護学校の名称変更に伴い、平成20年4月1日より、「養護学級」の呼称を「支援学級」とする。

「支援学級」の内容及び取扱い等については、これまでの「養護学級」と変わるものではない。

(教委障第1548号 平成19年12月28日付 より一部抜粋)

このことは、豊教セ第478号【平成20年（2008年）1月11日付】でお知らせしております。

豊中市でも、大阪府教育委員会の呼称変更に伴い、平成20年（2008年）4月1日から「養護学級」を「支援学級」と呼称を変更いたします。

なお、障害児教育担当は「教育センター 養護教育係」と従来のまま、変更はありません。

この春

たくさんの子どもたちが 新しい世界に飛び立っていきます!



義務教育を終えた子どもたちの進路先の一つに、

大阪府では「知的障害生徒自立支援コース」を設けています。

これは、知的障害のある生徒が社会的自立を図ることができるよう、高等学校において一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行い、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する環境を整備していく観点から設置されています。

この近辺では、大阪府立柴島高等学校、大阪府立園芸高等学校に設置されています。選抜方法は、学力検査は実施せず、調査書、推薦書、面接等を資料として行われます。

また、大阪府立たまがわ高等支援学校（東大阪市内）では、調査書、推薦書、面接以外に適性検査（筆記等検査・作業検査）も行われます。

いずれも、知的障害がある生徒が対象ですので、志願するときに、療育手帳の写し、または、児童相談所等の公的機関により知的障害を有すると判定の写しが必要です。

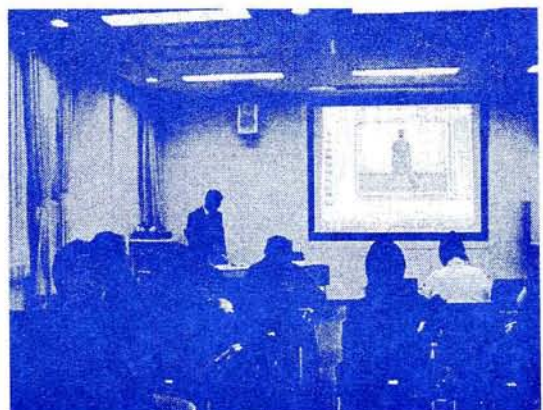
大阪府公立高等学校入学者選抜を受ける障害のある生徒については、受検上の配慮事項が講じられます。

配慮事項には、対象者の状況に応じて、学力検査時間延長・代筆解答・介助者の配置・英語のリスニングテストの筆答テストによる代替、拡大問題用紙、個人面接、別室受検、休憩時間の延長等があります。詳細については、例年、各中学校にお知らせしています。

障害のある生徒の進路先が多様になってきました。義務教育終了以後も「ともに学び、ともに育つ」教育がつながっていきますよう願ってやみません。

研修345

経験5年未満の先生方を対象に、昨年度から始まった研修です。本年度は合計10回実施されました。3時45分から45分間の研修で、日々の授業実践や学級経営のヒントとなる内容で実施しています。3学期は、「ICT機器を授業に活用する～わかる授業をつくる～」「締めくくりに伝えたいこと 学級開きに伝えたいこと」をテーマに実施しました。来年度も身近なテーマを取り上げ実施していく予定です。たくさんの先生方のご参加をお待ちしています。



隠れて見えないけれど・・・

かくれんぼは皆で楽しむ遊びの1つだと思います。この遊びは隠れたメンバーをオニが見つかる遊びです。オニはメンバーが隠れて見えないけれど「どこかに隠れている」と思うから一生懸命探します。隠れるメンバーの方も「見つけてもらえる」と思っているから安心して隠れています。

隠れて見えないけれどメンバー間に一緒に遊んでいるという関係があるから「隠れる・見つける」を楽しめるのです。かくれんぼはメンバー間の関係の上に成り立っています。

このような関係の大切さは学校生活の中でも言えます。なかでも学校を休んでいる子は学校のことを大変気にしています。かくれんぼで隠れている時でもオニの動き、メンバーの動向にアンテナを張り巡らしているのと少し似ています。休んでいても先生、友だちとの関係があって「皆に忘れられていない」と思うと安心です。

かくれんぼで隠れている間に他のメンバーに忘れられて、皆が他の遊びを始めたり帰ってしまったらどうでしょう。恐ろしいことです。不登校の子にとっても、忘れられるのは怖いことなのです。

かくれんぼで探すときも、「どこにかくれているのかな?」「この辺かな」と微妙な間をおいて声をかけます。ずっと休んでいて、家に行っても会ってこない子どもに向けてのプリントに時々メモをつけたり、保護者の方に電話したときに、「よろしく」と伝えてもらったり、ちょっとした働きかけが「忘れてないよ」と伝えるためのメッセージになります。そうしているうちに、隠れていた子が頭をのぞかせ、「見つけた」と皆で迎える瞬間がやってきます。

学校に来ていないこととかくれんぼの遊びを一緒にするつもりはありません。でも「隠れているけどいる」「いなくなっても見つけてもらう」など、関係の大切さや存在することの確かめなど、かくれんぼから不登校の子への関わりのヒントについて考えさせられるところがあるように思います。(大倉)

